

- 問1 日本列島の中央部に位置する新潟県は、東北地方、関東地方、中部地方の各県と広く境界を接しています。新潟県が陸上で直接境界を接している隣接県の数はいくつですか。 (2018年 三重県公立入試 類似)
1. 5つ 2. 7つ 3. 4つ 4. 6つ
- 問2 石川県輪島市を中心に生産される「輪島塗」は、他の地域の漆器と比較しても非常に堅牢（丈夫）であることで知られています。その品質を維持し、製品の耐久性を高めるために行われている、この地域独自の技法に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2022年 新潟県公立入試 類似)
1. 下地の工程で、地場で採れる地粉（珪藻土）を漆に混ぜて塗り、器を補強している。 2. 接着剤を使わずに複雑な木組みを行うことで、衝撃を吸収する構造にしている。 3. 木材を乾燥させずに加工し、漆を染み込ませることでひび割れを防いでいる。 4. 鉄を高温で熱して叩き、不純物を取り除くことで強度を高めている。
- 問3 静岡県周辺の太平洋沿岸部において、冬でも気温が5度を下回らない日が多く、比較的温暖である理由として最も適切な説明はどれですか。 (2023年 福岡県公立入試 類似)
1. 暖流である黒潮（日本海流）の影響を受けるとともに、北からの冷たい季節風が山脈によって遮られるため 2. 一年中吹いている偏西風が、大陸の暖かい空気を絶えず運んでくるため 3. 暖流である対馬海流の影響を強く受け、冬でも湿った空気が流れ込みやすいため 4. 標高が低く日照時間が短いため、放射冷却が起こりにくいから
- 問4 中央高地の気候的特徴である「夏でも涼しく、冬の寒さが厳しい内陸部」という条件を活かした長野県などの農業の取り組みとして、適切なものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
1. 冬の積雪を水源として利用し、広大な平野で大規模な稲作が行われている。 2. 夏でも涼しい高原の気候を利用して、レタスやキャベツなどの野菜を夏から秋に出荷する抑制栽培が行われている。 3. 冬の温暖な気候を活かして、他の地域よりも早く出荷する促成栽培が盛んに行われている。 4. 年間を通じて降水量が少なく日照時間が長いと、山の斜面を利用してミカンなどの果樹栽培が行われている。
- 問5 佐渡島では、鉱山跡の観光活用に加え、農業の「第6次産業化」による地域活性化が進められています。この「第6次産業化」の内容を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
1. 農業者が生産（第1次産業）だけでなく、食品加工（第2次産業）や流通・販売（第3次産業）まで一体的に取り組み、付加価値を高めること。 2. 食料自給率を向上させるため、全ての農地を国が管理し、生産された農産物をすべて海外へ輸出する仕組みを作ること。 3. 都市部への人口流出を防ぐため、近隣の都市へ通勤する住民に対して、交通費や住宅費を自治体が全額補助する制度を導入すること。 4. 農地を工業団地として整備し、最先端の宇宙開発拠点や精密機械工場を誘致して、地域の雇用を創出すること。
- 問6 長野県の工業において、かつて盛んだった製糸業に代わり、現在は内陸県の特性を活かしてどのような製品の製造が盛んに行われていますか。最も適切なものを選択してください。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 石油化学製品 2. 電子機器・精密機械 3. 自動車・輸送用機器 4. 鉄鋼・金属製品
- 問7 都道府県別の平均標高を示した統計において、山梨県や群馬県を抑えて最も高い1132メートルを記録している長野県の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 高知県公立入試 類似)
1. 内陸の盆地特有の、夏に高温多湿となる気候を活かして稲作の二毛作が盛んに行われている。 2. 高冷な気候を活かし、他の地域で収穫が少なくなる夏から秋にかけて野菜を出荷する抑制栽培が盛んである。 3. 冬の温暖な気候と日照時間を活かし、ビニールハウス等を用いて出荷時期を早める促成栽培が盛んである。 4. 周囲を海に囲まれた温暖な気候を活かし、早場米の生産や花卉の栽培が大規模に行われている。
- 問8 東京駅を出発し、群馬県の高崎駅や長野県の軽井沢駅などを経由して、石川県の金沢駅までを結ぶ北陸新幹線が通過する県として適切なものはどれですか。 (2022年 島根県公立入試 類似)
1. 新潟県 2. 岐阜県 3. 福島県 4. 山梨県
- 問9 新潟県の農業産出額の構成において、米の割合が非常に高く、野菜や果実などの割合が低い背景を説明したものとして、最も適切な記述はどれですか。 (2020年 兵庫県公立入試 類似)
1. 年間の日照時間が非常に長く、温暖な気候を利用した果樹栽培が農業の中心となっているため。 2. 広大な山地や原野を利用した畜産業が発達し、米の生産額を上回る収益を上げているため 3. 大消費地である東京に隣接しているため、米よりも鮮度が重視される野菜の生産に特化しているため。 4. 信濃川などの大河川の下流に広がる越後平野が、日本を代表する米単作地帯となっているため。
- 問10 木曽福島周辺の地形的な特徴と、江戸時代にこの地に福島関所が設置された理由の組み合わせとして、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
1. 広大な平野を流れる木曽川の氾濫を防ぐために、治水工事の拠点として幕府の役人を配置し、周辺の農民を管理するため。 2. 山々に挟まれた狭い谷底に交通が集中する地形を利用して、江戸への武器の流入や大名の妻の逃亡を厳しく監視するため。 3. 太平洋沿岸に近いという立地条件を活かして、外国船の来航に対する海岸警備の拠点とし、江戸の防衛を強化するため。 4. 木曽川が南西から北東へと流れる地形の特性を活かし、水運を利用して日本海側から運ばれる物資に重い税を課すため。
- 問11 北陸3県（新潟・富山・福井）の工業統計における製造品出荷額の内訳を分析したとき、他県と比較して福井県で特に高い割合を示している工業分野と、富山県で特徴的な工業分野の組み合わせとして適切なものはどれですか。 (2016年 福岡県公立入試 類似)
1. 福井県：繊維工業／富山県：化学工業・輸送用機械 2. 福井県：電子部品／富山県：印刷業 3. 福井県：輸送用機械／富山県：電子部品 4. 福井県：食料品／富山県：石油・石炭製品
- 問12 静岡県内の工業都市とその特徴について述べた次の文のうち、東海工業地域の特色を正しく表しているものはどれですか。 (2026年 山形県公立入試 類似)
1. 浜松市を中心にオートバイや楽器の製造が発展し、富士市では富士山の豊富な湧水を利用した製紙業が盛んに行われている。 2. 東京都から神奈川県にかけての沿岸部に位置し、出版・印刷業や、高度な技術を要する中小企業の工場が密集している。 3. 名古屋市や豊田市を中心に、日本最大の出荷額を誇る自動車工業が集積しており、周辺には石油化学コンビナートも形成されている。 4. 高速道路のインターチェンジ周辺に、安価で広い用地を求めて自動車工場や電気機械の工場が移転し、内陸型の工業が発達している。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 5つ	新潟県は、北東から順に山形県、福島県、群馬県、長野県、富山県の合計5つの県と境界を接しています。本州の日本海側に位置し、東北・関東・中部の3つの地方にまたがって隣接県が存在する点は、日本の地域構成を理解する上での大きな特徴です。
問2	答え 1 下地の工程で、地元で採れる地粉（珪藻土）を漆に混ぜて塗り、器を補強している。	輪島塗が「堅牢」と言われる最大の理由は、下地作りにあります。輪島特産の地粉（じのこ）と呼ばれる珪藻土を焼いた粉を漆に混ぜて何度も塗り重ねることで、漆器の弱点である縁（ふち）などの摩耗しやすい部分を徹底的に補強しています。これにより、修理をしながら一生使い続けることができるほどの丈夫さが生まれます。他の選択肢は金属加工や木工技術の説明であり、漆器の技法ではありません。
問3	答え 1 暖流である黒潮（日本海流）の影響を受けるとともに、北からの冷たい季節風が山脈によって遮られるため	太平洋側の気候が冬に温暖なのは、沿岸を流れる暖流の黒潮が空気の温度を下げにくくしていることや、冷たい北西の季節風が険しい山脈（日本アルプスなど）に遮られ、乾燥した暖かい風として吹き降りしてくることが主な要因です。対照的に、日本海側では暖流の対馬海流の影響で雪が降りやすくなります。
問4	答え 2 夏でも涼しい高原の気候を利用して、レタスやキャベツなどの野菜を夏から秋に出荷する抑制栽培が行われている。	中央高地の長野県や群馬県の高原地帯では、標高が高く夏でも涼しいという気候を活かし、他の地域では生産が難しい夏から秋にかけてレタス、キャベツ、ハクサイなどを栽培しています。これを「抑制栽培」と呼び、都市部の需要が高まる時期に出荷することで高い収益を上げています。冬の寒さが厳しく氷点下になる中央高地では、温暖な気候を利用する促成栽培やミカン栽培は適していません。
問5	答え 1 農業者が生産（第1次産業）だけでなく、食品加工（第2次産業）や流通・販売（第3次産業）まで一体的に取り組み、付加価値を高めること。	第6次産業化とは、第1次産業（農業・水産業など）の従事者が、第2次産業（製造・加工）と第3次産業（流通・販売・観光など）を融合させることで、農産物に新たな付加価値を生み出す取り組みです。佐渡島でも、特産品を使った加工品の開発や直売所の運営など、農業を多角化することで地域の所得向上や産業の活性化を図っています。
問6	答え 2 電子機器・精密機械	長野県はかつて養蚕・製糸業が盛んでしたが、戦後はその伝統的な技術や、内陸部特有の「きれいな空気と水」を必要とする産業へとシフトしました。電子機器や精密機械は、製品が小型で高付加価値であるため、臨海部のような大規模な港がなくても、高速道路を利用したトラック輸送で効率的に出荷できるという内陸県ならではの強みを活かしています。
問7	答え 2 高冷な気候を活かし、他の地域で収穫が少なくなる夏から秋にかけて野菜を出荷する抑制栽培が盛んである。	長野県は平均標高が日本で最も高く、夏でも涼しい高冷地の気候を有しています。この気候条件を利用し、平地での出荷が減少する夏場にレタスなどの高原野菜を収穫・出荷する「抑制栽培」が発達しました。これにより、他の産地と出荷時期をずらすことで、市場において有利な価格で販売することが可能になっています。
問8	答え 1 新潟県	北陸新幹線は、東京から群馬県、長野県を経由した後、新潟県（上越妙高駅など）、富山県を通して石川県の金沢駅（2022年当時）へと至る路線です。福島県は東北新幹線の沿線であり、山梨県は中央本線の沿線であるため、北陸新幹線のルートには含まれません。
問9	答え 4 信濃川などの大河川の下流に広がる越後平野が、日本を代表する米単作地帯となっているため。	新潟県には日本最長の信濃川や阿賀野川が流れ、その下流に広大な越後平野が形成されています。この平野部は古くから大規模な干拓や土地改良が進められ、日本を代表する穀倉地帯として米単作が行われてきました。そのため、農業産出額に占める米の割合が他県に比べて極めて高いという特徴が生まれています。
問10	答え 2 山々に挟まれた狭い谷底に交通が集中する地形を利用して、江戸への武器の流入や大名の妻の逃亡を厳しく監視するため。	木曽福島付近は急峻な山々が迫り、交通路が木曽川沿いの狭い空間に限定される「地政学的なボトルネック」となっています。幕府はこの地形を利用して福島関所を設け、「入鉄砲に出女」と呼ばれる厳しい取り締まりを行いました。これは江戸の治安維持と、参勤交代を行う大名への統制を目的としたものです。選択肢にある「川の流向」や「海岸警備」の説明は、実際の地形や歴史的事実とは異なります。
問11	答え 1 福井県：繊維工業 ／ 富山県：化学工業・輸送用機械	福井県は、かつて羽二重（絹織物）の産地として知られた歴史があり、現在でも他の北陸各県と比較して繊維工業の割合が高いことが大きな特徴です。一方、富山県は大規模な水力発電による安価な電力を利用したアルミニウム工業から発展した経緯もあり、化学工業や輸送用機械が産業の柱となっています。新潟県は電子部品や食料品の割合が高いことで区別されます。
問12	答え 1 浜松市を中心にオートバイや楽器の製造が発展し、富士市では富士山の豊富な湧水を利用した製紙業が盛んに行われている。	東海工業地域は、特定の巨大都市に依存するのではなく、浜松市（輸送用機械・楽器）や富士市（製紙）といった各都市が独自の地場産業や資源背景をもとに発展してきました。選択肢にある自動車工業の集積は中京工業地帯、印刷業や中小工場の密集は京浜工業地帯、内陸型工業の発展は北関東工業地域の特徴です。